



旧居留地エリアマップ



1868年1月(慶応3年12月)の神戸開港に伴い外国人による貿易の拠点として整備されたエリア。区画はほぼ当時のままだが、建物は大正から昭和初期のものが多い。開港当時の「商館」としてその姿をとどめているのは「15番館」だけだ。それにしても大正期の銀行や物産ビルの重厚さが醸すハイソサエティな街の雰囲気は今に受け継がれている。

